



CIO Technology Playbook 2023

よりスマートに未来をリードするために



Rajnish Arora

Vice President
Enterprise Computing, IDC Asia/Pacific

IDC Doc. #JP50249823 (AP241416IB)



An IDC InfoBrief — February 2023

Sponsored
by

Lenovo

AMD

エグゼクティブサマリー

CIOの戦略的な必須事項

2023年のCIOのビジネスとテクノロジーのアジェンダ

デジタルインフラストラクチャ：ビジネストランスフォーメーションの基盤

企業は、大多数のワークロードに関して、パブリッククラウドよりもプライベートクラウドと従来のデータセンターを好む傾向が続くであろう

組織は、従来のDCおよびプライベートクラウドでミッションクリティカルなワークロードを実行し続ける

消費／as a Serviceの柔軟なITインフラストラクチャモデルの認知度が高く、採用が急速に進む

デジタルトランスフォーメーションを成功させる現代的なデータマネジメントの基盤

エッジイノベーションは、デジタルトランスフォーメーションのジャーニーにおける新たなフロンティアとなる

AIアプリケーションは2023年の主流となる

市場

CIO Technology Playbook 2023の調査概要

エグゼクティブサマリー

アジア太平洋地域のテクノロジー先進国と新興国の両方における、産業分野全体でビジネスは急速に変化している。デジタルテクノロジーによって競争環境が変化し、従来の参入障壁は下がっている。データドリブンのイノベーションは、企業にとって、高度にパーソナライズされた顧客エクスペリエンスを提供する能力、既存製品の周辺に構築された付加価値の高いデジタルサービスを使用して新しい収益源を創出する能力、そして顧客エクスペリエンスを改善するために新規および既存の製品やサービスの設計およびデリバリーを加速させる能力の土台となる。

デジタルテクノロジーの出現は、組織の持続的な競争優位性に重大な影響を与え、CIOの役割におけるパラダイムシフトを起こしている。今日のCIOは、破壊者であり、変革を起こすチェンジエージェントであるとみられているが、これには事業部門とのコラボレーションをさらに強化させるだけでなく、事業をさらに深く理解することが求められている。

本InfoBriefは、LenovoおよびAMDの依頼を受けて、アジア太平洋各地の組織のITおよび事業の意思決定者（ITBDM）906人を対象に実施されたカスタム調査への回答からインサイトを導き出すものである。本調査は、CIOおよびITリーダーがデジタルビジネスの取り組みを加速させるために、ビジネスおよびIT投資の優先事項、主な課題、そしてデジタルインフラストラクチャを将来に備えた最新の環境に変革するための支出の必須事項について、インサイトを提供する。

次のスライドでは、2023年にCIOが検討すべき主要なインサイトと要点を要約している。



CIOの戦略的な必須事項 (1/2)

以下は、ITおよびビジネスの意思決定者（ITBDM）906人を対象にしたIDCの調査から得られた7つの主要なインサイトと、2023年にアジア太平洋地域の組織が競争優位性を得る上で役立つとIDCが考えるCIOの戦略的な必須事項である。

主なインサイト		2023年のCIOの考慮事項
#1	CIOにとって、グローバル経済は最重要の懸念事項である。高いインフレ、エネルギー／原材料の価格の上昇、地政学的な悪条件による供給チェーンの制限が、2023年にビジネスの成長を抑える可能性があり、これはビジネスのデジタルトランスフォーメーション（DX）イニシアティブに消極的な影響を与えることになる。	サプライチェーンを最適化し、リソースの使用率を改善し、ビジネスのアジリティ／弾力性を向上させるためにデジタル技術を使用する組織は、変化する経済環境や競争環境において競争力を持って成功できる。
#2	デジタルインフラストラクチャ は、組織の収益力の要となり、2027年には デジタルにつながった製品、サービス、顧客エクスペリエンス から生み出される収益は43%にもなる見込みである（2022年の27%から上昇）。	テクノロジーは、組織のDXを成功させる基盤となる。ただしCIOは、デジタルビジネスの持続的な成功を推進するためにレガシーインフラストラクチャおよびアプリケーションをモダナイズするだけでなく、新しく破壊的なテクノロジー投資に対して、より戦力的なアプローチをとる必要がある。
#3	アジア太平洋地域の組織は、今後2～3年間にハイブリッド／マルチクラウドへのシフトを加速させる見込みである。IDCの調査では、組織の63%が ワークロードをパブリッククラウドからプライベートクラウドまたは従来型のDCインフラストラクチャに回帰させた 。顧客の大半は、パブリッククラウドですべてのワークロードを実行しているわけではない。 組織は、パブリッククラウドが提供するアプリケーション体験およびパフォーマンスや、従来型およびクラウドで新たに発生する無数のワークロードのコストの最適化、急速に進化しているセキュリティおよび規制コンプライアンス要件への対応が必ずしも最適ではないことを痛みを伴って学んだ。AIを活用したオブザーバビリティ、プロビジョニング、管理、改善ソフトウェアテクノロジーは、パブリッククラウドのような体験を提供するプライベートクラウドを可能にした。	AIを活用したオブザーバビリティ、プロビジョニング、管理、改善ソフトウェアテクノロジーは、パブリッククラウドのような体験を提供するプライベートクラウドを可能にした。大規模から中規模の組織にとって、ワークロードをパブリッククラウドにすべて移行することは賢明なアプローチではないかもしれない。CIOは、さまざまな実装オプションが提供するビジネスとテクノロジー面の価値に基づいて、プライベートクラウドとパブリッククラウドのオプション全体でワークロードを実行するための戦略的なロードマップを構築する必要がある。
#4	今後2～3年間、顧客は、ミッションクリティカルまたはビジネスクリティカルな中核的ワークロードの50%超を、引き続き従来型のDCインフラストラクチャ、システムおよびプラットフォーム、プライベートクラウドインフラストラクチャで実行し続けるであろう。クラウドで生まれたビジネスクリティカルかつモダンなアプリケーションを実行する組織や、従来型のレガシーアプリケーションをモダナイズしている組織は、 プラットフォームとして、プライベートクラウドを選択することが増える であろう。 こうしたビジネスクリティカルなワークロードは組織の中核的なSystem of Record（システムオブレコード）であるため、その多くは、もともと、従来型のコンピューティングシステムやプラットフォームが最高レベルのパフォーマンス、トランザクションスループット、低レイテンシー、最高レベルのセキュリティを提供するように構築、最適化されている。	プライベートクラウドは、アジア太平洋地域のCIOがビジネスクリティカルなレガシーアプリケーションをモダナイズし、移行する際、現実的で魅力的なオプションである。このオプションは、最高レベルのパフォーマンスを提供すると同時に、データセキュリティを提供し、規制コンプライアンス要件を満たす。モダナイズされるミッションクリティカルなワークロードの大部分は、パブリッククラウドではなく、プライベートクラウドに移行される。

2023年のCIOのビジネスとテクノロジーのアジェンダ

デジタルインフラストラクチャ：ビジネストランスフォーメーションの基盤

企業は、大多数のワークロードに関して、パブリッククラウドよりもプライベートクラウドと従来のデータセンターを好む傾向が続くであろう

組織は、従来のDCおよびプライベートクラウドでミッションクリティカルなワークロードを実行し続ける

消費／as a Serviceの柔軟なITインフラストラクチャモデルの認知度が高く、採用が急速に進む

デジタルトランスフォーメーションを成功させる現代的なデータマネジメントの基礎

エッジイノベーションは、デジタルトランスフォーメーションのジャーニーにおける新たなフロンティアとなる

AIアプリケーションは2023年の主流となる

市場

CIO Technology Playbook 2023の調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由

CIOの戦略的な必須事項 (2/2)

主なインサイト

#5 多種多様なデータタイプに対応するモダンで統一された単一のデータ管理プラットフォームは、組織がDXを進める際のデータイノベーションジャーニーの基盤となる。調査に回答した組織のうち、最も要求の厳しいビジネスのSLAや成果に対応するために、複数クラウドのデータのシームレスなモビリティのために統合された単一のデータ管理プラットフォームを採用し、コンテナおよびエッジ全体でデータを統合した組織は、わずか8%であった。

組織は、構造化されたワークロードと構造化されていないワークロードに対し、ストレージとデータ管理システムおよびプラットフォームの異種混在型の構成を続けることであろう。さらに、急速に拡大しているエッジインフラストラクチャも、複雑化する要因の一つとなり、従来型のコアDCを思わせる複数のプライベートクラウドとパブリッククラウドでまったく異なるペルソナやデータアクセス、分析、セキュリティ要件のあるワークロードの実行に取り組むことになる。

#6 エッジは、製造、旅行、物流、エネルギー、公益事業、医療といった産業分野の組織におけるデジタルイノベーションの新たなフロンティアとなるであろう。IDCの調査では、アジア太平洋地域の組織の88%は、業務遂行のためにエッジコンピューティングを使用しているか、今後12か月間に使用する予定である。

エッジコンピューティングの採用によって、企業は、新しくエキサイティング、デジタルを活用したビジネス上の成果と顧客エクスペリエンスを創造できる一方で、業務効率およびアジリティを高め、リソースを最適化できる。

#7 アジア太平洋地域の組織の80%強が、ビジネスおよびテクノロジー面で成果を上げるために、AIを活用したアプリケーションを使用しているか、今後12か月間に使用する予定であると回答した。

AIを活用したアプリケーションによって、CIOは、膨大な情報の分析やリアルタイムでのインサイト作成を行い顧客エンゲージメントや顧客エクスペリエンスを向上できるほか、急速に拡大し、複雑性を増す地理的に分散したインフラストラクチャを管理してレジリエンシーとアジリティを高め、ランサムウェアやマルウェア攻撃のインシデントが増加する中でIT運用のセキュリティを向上させることが可能になる。

2023年のCIOの考慮事項

CIOは、データドリブン型イノベーションを促進し、デジタル経済における競争優位性を維持するために、膨大なデジタルインフラストラクチャ全体に渡り、データへのアクセス、分析、サイバーレジリエンシー、一貫性といったデータ管理を簡素化する必要がある。

組織は、シームレスで一貫したIT運用のために、急速に拡大しているマルチクラウド環境とエッジインフラストラクチャとの統合を支援する適切なテクノロジーパートナーを選択する必要がある。エッジでユビキタスなアプリケーション体験を提供し、組織の自律的なIT運用を支援できるテクノロジーベンダーは、2023年以降、CIOのビジネスおよびテクノロジーのアジェンダをサポートする強力な立場となる。

2023年から2024年にかけての世界および地域レベルでの景気後退、人的資本（適切な人材と費用）不足の悪化、デジタルイノベーションの推進を続ける必要性によって、CIOは、さらに速いペースでAIアプリケーションを受け入れ、採用することを余儀なくされるであろう。AIの導入が遅い組織は、デジタル経済で競争力を失うリスクがある。

2023年のCIOのビジネスとテクノロジーのアジェンダ

デジタルインフラストラクチャ：ビジネス
トランスフォーメーションの基盤

企業は、大多数のワークロードに関して、
パブリッククラウドよりもプライベートク
ラウドと従来のデータセンターを好む傾向
が続くであろう

組織は、従来のDCおよびプライベートク
ラウドでミッションクリティカルなワー
クロードを実行し続ける

消費／as a Serviceの柔軟なITインフラ
ストラクチャモデルの認知度が高く、採用
が急速に進む

デジタルトランスフォーメーションを成功
させる現代的なデータマネジメントの基礎

エッジインノベーションは、デジタルトラ
ンスフォーメーションのジャーニーにお
ける新たなフロンティアとなる

AIアプリケーションは
2023年の主流となる

市場

CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由

2023年のCIOのビジネスとテクノロジーのアジェンダ

CIOの懸念

社会／経済面の上位3つの懸念事項

#1 高インフレ

53%

#2 エネルギー価格の上昇

50%

#3 原材料価格の高騰

50%

CIOの優先事項

ビジネス面の上位3つの優先事項

#1 収益および利益の成長の加速

36%

#2 顧客エクスペリエンスおよび満足度の向上

32%

#3 コストの最適化と削減

32%

デジタル製品／サービスから予測 される収益への貢献

2027 43%

2025 34%

2022 27%

ビジネスパラダイムの変化によって、組織の戦略、戦術、業務に関する意思決定の形成においてCIOおよびIT意思決定者が果たす役割はますます大きくなっている。デジタルテクノロジーは、組織の命運をますます握っている。急速に変化し、常に進化し続ける市場と競争環境においては、テクノロジーはもはや業務効率や生産性を高める手段ではなく、組織が持続的な競争優位性を構築する能力の土台となるものである。

CIOは、2023年および2024年初頭の事業成長を抑制する要因となる可能性が高い、インフレ率の高止まりやエネルギーや原材料価格の高騰について、懸念を強めている。組織はビジネスニーズの変化に対し、より素早く対応できるようになるため、テクノロジーを活用して、サプライチェーンを最適化し、資産活用を改善し、アジリティとレジリエンスを向上させている。売上高と利益成長の促進は最優先事項であるが、顧客重視を徹底することで、よりパーソナライズされた快適な顧客エクスペリエンスを提供できる。それは新規顧客の獲得だけでなく、既存顧客とのビジネスの成長にとっても重要である。

デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、組織がデジタルにつながった製品、サービス、顧客エクスペリエンスを提供する能力である。これは、デジタルアジェンダからの収益構成比の拡大から見ても明白である。デジタルへのシフトを加速している企業は、自身と、出遅れている競争相手とのギャップを拡大している。

原材料価格とは、鉄鋼、穀物、木材、プラスチックなどの商品価格を指す

企業は、大多数のワークロードに関して、パブリッククラウドよりもプライベートクラウドと従来のデータセンターを好む傾向が続くであろう

組織は、従来のDCおよびプライベートクラウドでミッションクリティカルなワークロードを実行し続ける

消費／as a Serviceの柔軟なITインフラストラクチャモデルの認知度が高く、採用が急速に進む

デジタルトランスフォーメーションを成功させる現代的なデータマネジメントの基礎

エッジイノベーションは、デジタルトランスフォーメーションのジャーニーにおける新たなフロンティアとなる

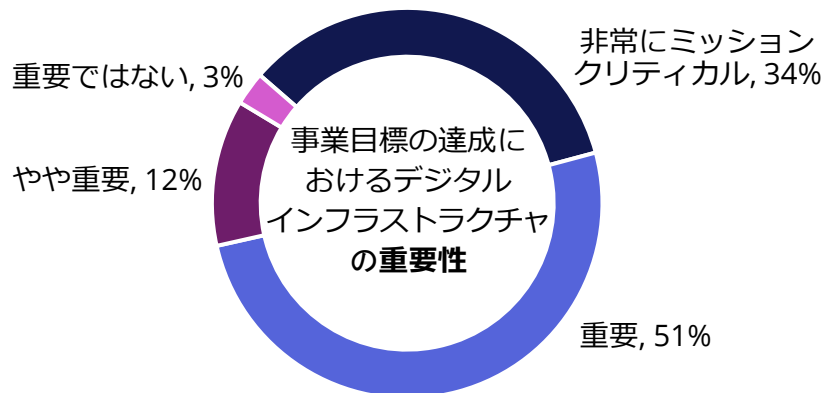
AIアプリケーションは2023年の主流となる

市場

CIO Technology Playbook 2023の調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由

デジタルインフラストラクチャ：デジタルビジネスを成功させる基盤



アジア太平洋地域の組織の85%は、事業目標を達成するために、デジタルインフラストラクチャはミッションクリティカルであるか、重要であると考えている。IDCでは、これは、経済の急速なデジタル化に端を発するもので、デジタルテクノロジーは組織のさまざまな業務部門に重大な影響を与えていると考えている。

インド、インドネシア、フィリピンなどの新興市場の組織は、ビジネストランスフォーメーションを実現するためにデジタルテクノロジーを受け入れるという思い切った決断をしている。当該新興市場の調査対象組織の**90%以上**は、組織にとって、デジタルインフラストラクチャは事業目標を達成するだけでなく、競争上の差別化を再定義するためにも、ミッションクリティカルであると回答した。

企業の進化するニーズに影響を与える主要分野

#1 IT運用の複雑性

49%

#2 変化するビジネスニーズへの迅速な対応

47%

デジタルインフラストラクチャの主な投資分野

#1 ランサムウェアやマルウェアの攻撃に対応するサイバーレジリエンシーの向上

49%

#2 デジタルインフラの管理とセキュリティの自動化

47%

CIOは、マルチクラウドの登場と、エッジインフラストラクチャの急速な拡大によって、IT運用の複雑性が増大する一方で、ビジネスが絶えず変化し、進化しているニーズに対してさらなる迅速な対応が求められていることを強く懸念している。DXを加速させ、レガシーITインフラストラクチャをモダナイズするため、CIOはサイバーレジリエンシーの改善と、デジタルインフラストラクチャの管理の自動化を2023年の投資の優先分野として掲げている。IDCは、デジタル経済で企業が成功するための主な必須事項であるレジリエンシー、アジリティ、柔軟性のレベルを引き上げる重要な要素の一つは、オートメーションであると確信している。

オーストラリア／ニューージーランドの組織の**62%**は、サイバーレジリエンシーを投資の主要な優先事項であると考えている。これは、オーストラリア／ニューージーランドの組織が成熟しており、デジタル資産の保護、強力なコンプライアンス、政府要件の遵守の重要性を理解していることを反映している。さらに、オーストラリア／ニューージーランドの組織は、データイノベーションに関して、アジア太平洋地域の他の国の組織に先行している。

ビジネスクリティカルなアプリケーションのモダナイズは、データドリブンのイノベーションを加速させる重要な要素である。アプリケーションの相互依存性には、ほぼリアルタイムでアプリケーション全体で情報を共有し、より迅速な意思決定をサポートできる必要があるためである。

企業は、大多数のワークロードに関して、パブリッククラウドよりもプ ライベートクラウドと従来のデータセンターを好む傾向が続くであろう

構成比

現在の構成	27%	22%	23%	29%
今後12か月間	27%	22%	25%	27%
	パブリッククラウド (IaaS、PaaS、SaaSを含む)	専用のエッジ/ブランチ/小 規模キャンパスロケーション	プライベートクラウド	専用の従来型データセンター

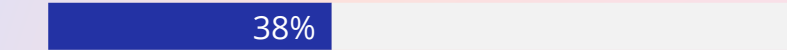
組織は、ペースを加速しつつワークロードをプライベートクラウドに移行する傾向が続く。その結果、次の12か月間に、プライベートクラウドで実行されているワークロードの割合が23%から25%に増加することになる。プライベートクラウドはアジア太平洋地域で最も成長する配備タイプとなる。

IDCが調査した組織の大多数（63%）が、過去12か月間にパブリッククラウドからトラディショナルDCまたはプライベートクラウドにワークロードを戻した。成熟したIT市場は、回帰率が高い傾向がある。なぜならば、顧客はかなり長い期間、パブリッククラウドでワークロードを実行する経験を積んでおり、ワークロードの配置やプライベートとパブリッククラウドの選択に関するより良い情報を得ることができるからである。

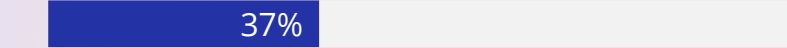
パブリッククラウド

パブリッククラウドでワークロードを実行する際の課題

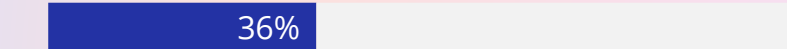
#1 データセキュリティに関する懸念と対策の強化



#2 アプリケーションの速度とパフォーマンス



#3 使用量や消費量と不相応に増加するコスト

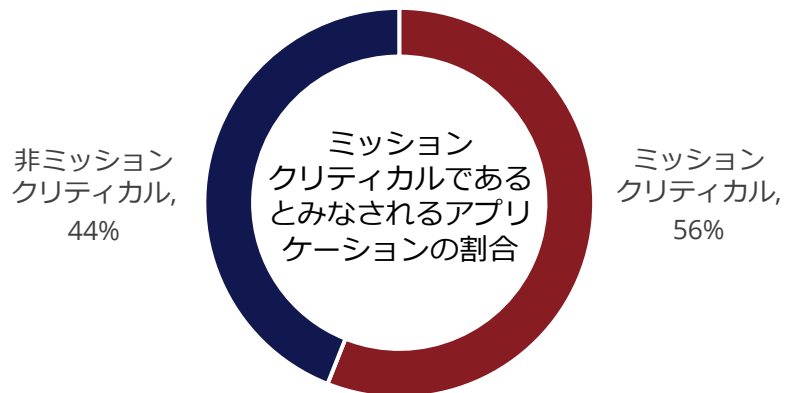


組織は、パブリッククラウドでワークロードを実行する際のセキュリティとスピード/パフォーマンスを2つの主な懸念点として強調した。IDCは、金融サービス、医療、公共部門などの重要な業界において厳格な規制とコンプライアンス要件があることから、CIOはいくつかのワークロードをプライベートクラウドまたはトラディショナルDCインフラストラクチャに戻す必要があると考えている。

ワークロードのインフラストラクチャ要件が増加しても、CIOがパブリッククラウドの大規模で予測可能なワークロードの運用コストについて懸念があるため、パブリッククラウドのコストは直線的に増加するわけではない。

システムベンダーはオペレータビリティ、管理、プロビジョニングに統一した管理プラットフォームを提供しているため、顧客は自身の専有型インフラストラクチャで同じパブリッククラウド体験ができる。そのため、顧客にとっては、既存のワークロードと、プライベートクラウド環境でクラウドで生まれたモダンなワークロードを、パブリッククラウドよりも、プライベートクラウドで実行する方がはるかに魅力的であるとIDCは確信している。

組織は、従来のDCおよびプライベートクラウドでミッションクリティカルなワークロードを実行し続ける



ミッションクリティカルなアプリケーションの大部分はレガシーであるため、従来型のDCインフラストラクチャで実行される割合は将来低下するであろう。組織はミッションクリティカルなワークロードをプライベートクラウド、あるいは場合によってはパブリッククラウドのモダナイズされたバージョンで実行することがますます増加していく。

データの規制およびコンプライアンス要件以外にもアプリケーションのパフォーマンスやレイテンシーの問題が懸念されるため、今後、日本を除くあらゆる地域で、パブリッククラウドで実行するミッションクリティカルなワークロードの割合は低下することがIDCの調査で示されている。

現在および将来のミッションクリティカルなアプリケーションの配備モデル別の構成比

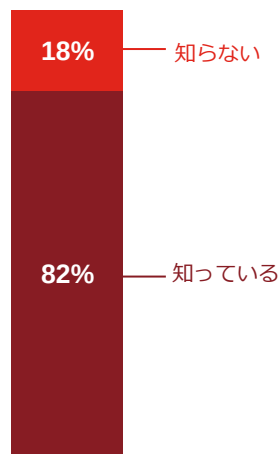
現在の構成	23%	24%	24%	30%
今後12か月間	21%	26%	26%	28%
	パブリッククラウド (IaaS、PaaS、SaaSを含む)	専用のエッジ/ブランチ/小規模 キャンパスロケーション	プライベートクラウド	専用の従来型データセンター

アジア太平洋地域の組織では、ミッションクリティカルなアプリケーションの大部分はレガシーであるため、従来型のDCは依然としてミッションクリティカルなアプリケーションを実行する主要なロケーションとなる。レガシーアプリケーションは、トラディショナルなコンピューターシステムで緊密に結合された方法で実行するように開発された。IDCは、今後12か月間に、アップグレードやモダナイズーションによって、ミッションクリティカルなワークロードを実行する従来型のDCは減少すると予測している。

興味深いことに、日本を除くアジア太平洋地域全体の顧客では、パブリッククラウドで実行するミッションクリティカルなアプリケーションの割合は今後12か月間に減少していくが、日本は1ポイント未満増加して19%になる見込みである。

日本の組織は、トラディショナルなコンピューターシステムのインストールベースが大量にあるため、大部分（41%）のミッションクリティカルアプリケーションをトラディショナルなDCインフラストラクチャで引き続き実行する。レガシーのミッションクリティカルなアプリケーションの一部のモダナイズは非常に複雑かつ困難で、多大な時間と費用が必要になるため、これが短期間に変化する可能性は低いとIDCはみている。

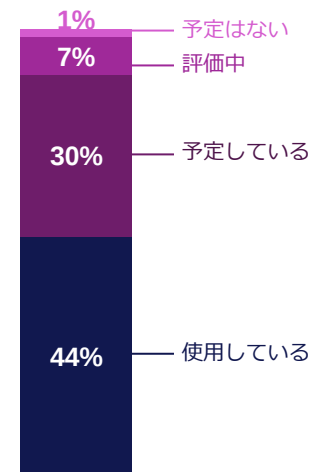
消費／as a Serviceの柔軟なITインフラストラクチャモデルの認知度が高く、採用が急速に進む



as a Service
認知度

as a Serviceのインフラストラクチャの消費モデルについて、システムベンダーは、ブランドのビジビリティとマインドシェアの構築において健闘し、アジア太平洋地域の組織の82%はその存在を知っている。

インドでの認知度は非常に高く、組織の91%が、as a Serviceのインフラストラクチャ製品を知っていると回答した。一方、北アジア（韓国および日本）では、極めて成熟し、テクノロジーに精通した市場であるにもかかわらず、認知度はかなり低いものであった。



as a Service
採用状況

44%の組織はすでにas a Serviceの柔軟なITインフラストラクチャモデルを使用しており、ほぼ**75%**は今後12～18か月の間に使用する予定である。

インドの顧客は、知っているだけでなく、知っている回答者の半分以上が現在それを使用している。

オーストラリア／ニュージーランド、インド、韓国の組織の3分の1は、消費モデルやas a Serviceの柔軟なITインフラストラクチャモデルを採用する予定である。

as a Serviceを採用する主な3つの理由

#1 IT運用コストの削減

34%

#2 ビジネスの要求に対応する柔軟性とアジリティの向上

32%

#3 ビジネス成果を上げるための技術的イノベーションの重視

32%

アジア太平洋地域の組織は、コストの合理化および最適化が、as a Serviceのインフラストラクチャ製品を採用する主要な促進要因であると回答した。

変動が非常に大きく、絶えず変化する現在のビジネスと経済の環境で、消費／as a ServiceのITモデルは、ビジネス上の成果とIT投資および支出を密接に連携させ、それらを劇的に変化させられるため、調査対象の組織は、その柔軟性とアジリティに魅力を感じている。

ビジネスイノベーションがデジタル経済における成功に向けた戦略的な必須事項になりつつある中で、消費モデルによって、アジア太平洋地域のCIOは、業務の継続に必要なITインフラサービスを調達、実装、管理、実施する財務および人的資本について懸念する必要がなくなりつつある。

デジタルトランスフォーメーションを成功させる 現代的なデータマネジメントの基礎 (1/2)

現在および将来のデプロイメントの構成比

34%	44%	14%	8%
各ベンダーのストレージレイそれぞれに複数 のデータ管理プラットフォームを利用しており、 パブリッククラウドやオン/オフプレミスのプ ライベートクラウド、従来型データセンター間 のデータモビリティは限定的	複数のデータ管理プラットフォームでブロック、ファ イル、オブジェクトのデータタイプを独立して管理し、 パブリッククラウドとプライベートクラウド、エッジ ロケーション間でのデータモビリティは限定的	少数のデータ管理プ ラットフォームで異 なるクラウド間の データモビリティを 管理し、最も厳しい ビジネスSLAに対応 したほぼリアルタイ ムのデータモビリ ティとプロビジョニ ングを実現	単一のデータ管理プ ラットフォームで異 なるクラウド間のデータ モビリティを管理し、 コンテナ内のデータを 統合し、最も厳しいビ ジネスSLAに対応した リアルタイムでシーム レスなデータモビリ ティとプロビジョニン グを実現

現在、シームレスなモビリティによって、データドリブンのAI/MLおよびデータサイエ
ンスのワークロードを実行するために単一のデータ管理プラットフォームを使用し、
複数クラウドでデータモビリティを管理し、コンテナおよびVM全体でデータを統合し
ているアジア太平洋地域の組織は10%未満である。IDCは、アプリケーションの相互依
存性が高まることによって、異なるデプロイメントロケーション全体に、高度なセ
キュリティでシームレスなデータモビリティを提供する単一のデータ管理プラット
フォームに対する需要が生まれていると確信している。データがクラウドでサイロ化
され、ロックインされていると、各組織がDXを進めデジタル面の事業目標を達成する
妨げになる。

本調査では、複数のクラウド間で適切にデータを管理する点では、インドの組織の成
熟度が最も低く、単一のデータ管理プラットフォームを使用している組織はわずか4%、
ベンダーのストレージレイが異なっているために異なる管理プラットフォームを使
用している組織が38%であることが明らかになった。



デジタルトランスフォーメーションを成功させる 現代的なデータマネジメントの基礎 (2/2)

データマネジメントの主な目的

#1 データアクセス、品質、保護、セキュリティの向上

46%

#2 大量のデータを分析する、モダンなデータストレージプラットフォーム

46%

データマネジメントの主な課題

#1 ビジネスの継続性と回復性を高めるデータ保護

43%

#2 ハイブリッド／マルチクラウド環境におけるデータモビリティ

41%

データ量がかつてないペースで増加し、デジタル的なビジネス上の成果を上げるためにこれまで以上に迅速なペースで実行可能なインサイトを提供する必要がある中で、アジア太平洋地域の組織はモダンなデータマネジメントプラットフォームを最優先事項とする傾向を強めている。

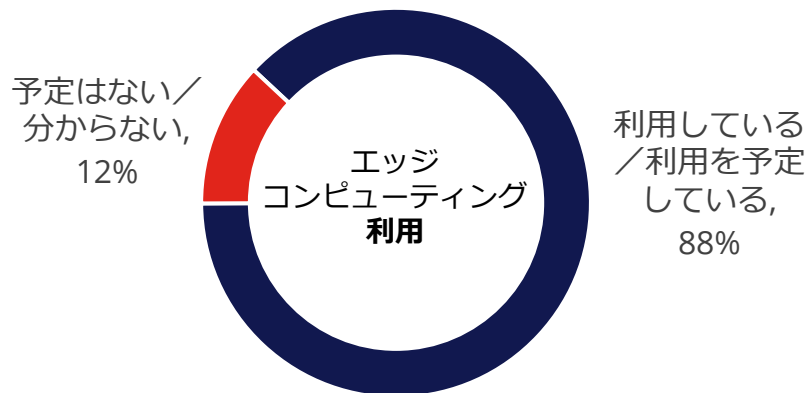
デジタルイノベーションの新たなフロンティアであるエッジにおけるデータの急増を管理するために適切なプラットフォームおよびテクノロジーに投資しているCIOは、産業分野において市場のリーダーシップを取る有利な立場になる。

ランサムウェアやマルウェア攻撃が増大する環境での事業の継続は、アジア太平洋地域の組織が取り組んでいるデータマネジメントの最大の課題である。サイバー攻撃は、非常に深く広範囲に影響を及ぼすため、今後12か月間にサイバーレジリエンシーに戦略的な見解を持たないCIOは時限爆弾を抱えることになる、IDCは確信している。

複数のクラウドとエッジ全体にデジタルインフラストラクチャを素早く普及させることで、CIOはAI/MLを活用した脅威の検知、迅速な対応と改善のソフトウェアツールを駆使して、ビジネスのために確保するアップタイムを増加させることができる。さらに、調査対象者の42%は、本番環境と、そのデータをコピーしたバックアップを物理的に切り離し、コントロールパスをデータパスから分離し、サイバーレジリエンシーを確実に強化していると回答した。また、組織の41%は、データまたはランザクシオンの喪失による事業の混乱を最小化するため、地理的な複数の場所で、同期レプリケーションを使用する予定である。



エッジイノベーションは、デジタルトランスフォーメーションのジャーニーにおける新たなフロンティアとなる



アジア太平洋地域の88%もの組織が、エッジコンピューティングを利用しているか、近い将来、利用する予定である。エッジイノベーションの活用においては、インドの組織が先行しており、調査対象組織の97%超が、業務を展開するためにエッジコンピューティングを使用する意向であると回答している。

IDCの他の多くの調査で、日本の組織はアジア太平洋地域で最もデジタル面で成熟していることが示されている。日本の組織は、新しいテクノロジーやソリューションに対して、より保守的なアプローチをとることがよくあり、多くの場合、ソリューションが成熟するのを待ってから、大規模に採用する。このことは、エッジについても当てはまり、日本の組織の約3分の2は、エッジを使用しているか、今後12か月間に使用する予定であると回答したが、これは地域の平均を下回っている。

エッジコンピューティングの主なユースケース

#1 オムニエクスペリエンスのためのリアルタイムの顧客分析

37%

#2 自動化された品質管理および修正

35%

#3 資産追跡、ジオフェンシング、管理

33%

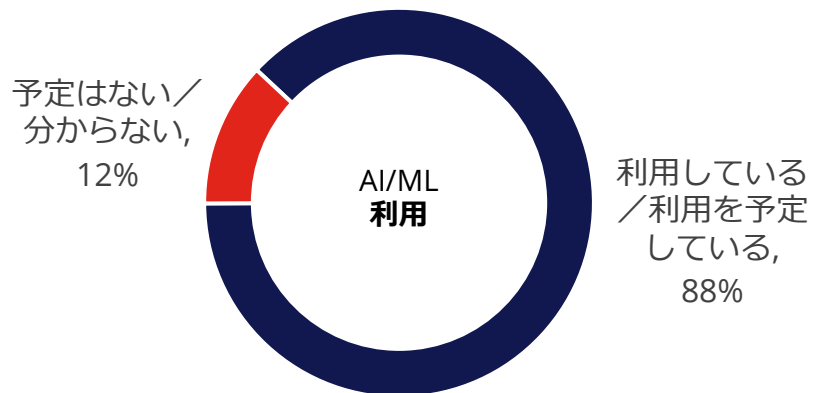
デジタル経済での成功を導くために、ビジネスにおいて優れた顧客エクスペリエンス（CX）の提供を重視する姿勢が強まっている。オムニエクスペリエンスのためのリアルタイムの顧客分析によって、組織は顧客の嗜好、購入意欲、行動パターンの変化をより深く理解できるようになるため、高度にパーソナライズされ、デジタルを活用した製品およびサービスを提供できるようになる。

たとえば製造、小売、物流、輸送、エネルギーといった産業分野の一部では、エッジイノベーションを活用し、品質管理や改善を自動化している。ビジネスが資産活用の最適化や従業員の生産性、顧客エクスペリエンスを改善し、アップタイムの増加や、製品の信頼性の向上に役立っているとIDCでは考えている。

製造、小売、エネルギー、公益の産業分野において、エッジコンピューティングは、資産追跡、ジオフェンシング、管理にますます使用されている。資産の追跡にエッジコンピューティングを採用するアーリーアダプターである組織は、とりわけ現在の流動性資金が逼迫した厳しい事業環境で、恩恵を受け始めているとIDCでは考えている。

また、調査では、エネルギー管理およびスマートグリッドの最適化が、オーストラリア／ニュージーランドおよび韓国における上位3つのユースケースに入った。その背景には、持続可能性の考慮と、テクノロジーを高度に活用する企業があるとIDCはみている。

AIアプリケーションは2023年の主流となる



AIアプリケーションは、アジア太平洋地域で広範なデプロイメントが見られるであろう。回答者の80%超が、AIアプリケーションを利用しているか、今後12か月間に利用する予定であると回答した。日本の多くの組織はデジタル的に成熟しているが、アジア太平洋地域の平均と比較すると、AIアプリケーションを利用している、または利用する予定であると回答した組織は少数であった。おそらく、ソリューションが成熟するのを待つてから、大規模に採用すると思われる。

IDCは、AIアプリケーションを真に活用する意向である組織は、文化と人材のトランスフォーメーションを経る必要があると考えている。組織は、産業分野横断でさまざまなビジネスケースや部門のためにAIを活用したアプリケーションを使用すると予測されるため、影響が及ぶ範囲が広がる。

オートメーションは、IDCの将来に備えるデジタルインフラストラクチャの枠組みの3つの主要な必須事項の一つである。各組織のITインフラストラクチャが複数のクラウド、エッジ、コアDCに広がっており、AIを活用すべき業務プロセスの上位3つの一つとして、CIOがIT運用を挙げたのは意外ではない。

アジア太平洋地域の組織の中で、AIを活用したアプリケーションを使用する主要な業務プロセスの一つとして、セキュリティが浮上している。AIのアプリケーションは機械学習とディープラーニングのアルゴリズムを使用し、ネットワーク上で数百万のパターン、インシデント、イベントを検知し、サイバー攻撃が存在するかどうかを判断する。AIによって、セキュリティアプリケーションは、過去のパターンから常に学習し、差し迫った攻撃を素早く特定できるようになる。外部のタッチポイント数が飛躍的に増加しているため、AIを活用したセキュリティアプリケーションでなければ、増大するサイバーレジリエンスの課題に対処できないとIDCは確信している。

各組織では顧客重視と顧客エクスペリエンスがデジタルトランスフォーメーションのジャーニーの中心にあることから、AIを活用したカスタマーサービスやサポートのアプリケーションを使用する組織は正しい方向に進んでいるとIDCはみている。

AIを導入している主な業務プロセス

#1 IT運用

28%

#2 セキュリティ

26%

#3 カスタマーサービスおよびサポート

23%

市場

- ・ **アジア太平洋地域（全体）**
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

CIO Technology Playbook 2023の調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由

アジア太平洋地域の全体的な概要 (1/2)

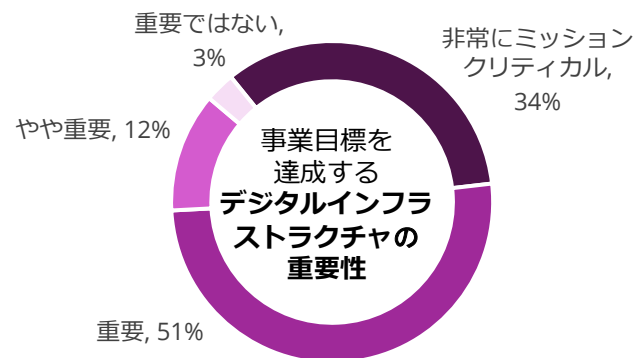
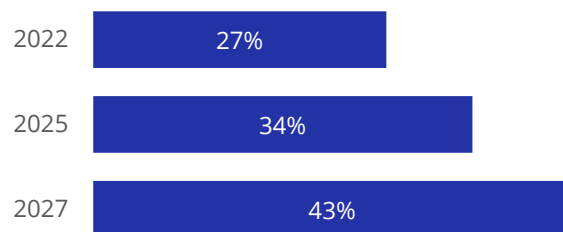
CIOの主な優先事項

- 1 収益および利益の成長の加速
- 2 顧客エクスペリエンスおよび満足度の向上
- 3 コストの最適化と削減

CIOの主な懸念

- 1 高インフレ
- 2 エネルギー価格の上昇
- 3 原材料価格の高騰

デジタル製品／サービスから予測される収益への貢献



デジタルインフラストラクチャの主な投資分野

- 1 ランサムウェアやマルウェアの攻撃に対応するサイバーレジリエンスの向上
- 2 デジタルインフラの管理とセキュリティの自動化
- 3 AI/MLワークロードのためのハイパフォーマンスコンピューティングプラットフォーム

進化するビジネスニーズに影響を与える分野

- 1 IT運用の複雑性
- 2 変化するビジネスニーズへの迅速な対応
- 3 インフラストラクチャのプロビジョニングと管理の標準化

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰したワークロード

63%

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰しなかったワークロード

32%

該当しない

5%



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

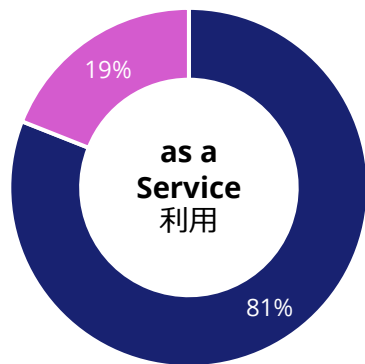
CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由

アジア太平洋地域の全体的な概要 (2/2)

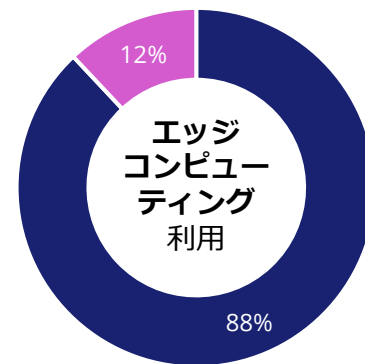
■ 利用している／次の12か月間で利用する予定である

■ 予定していない／知らない



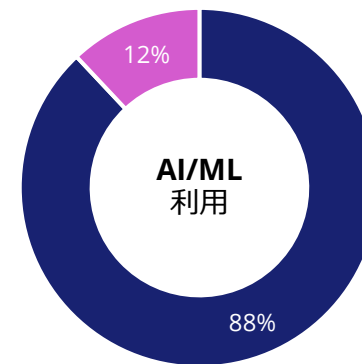
as a Serviceを利用する主な理由

- 1 IT運用コストの削減
- 2 ビジネスの要求に対応する柔軟性とアジリティの向上
- 3 ビジネス成果を上げるための技術的イノベーションの重視



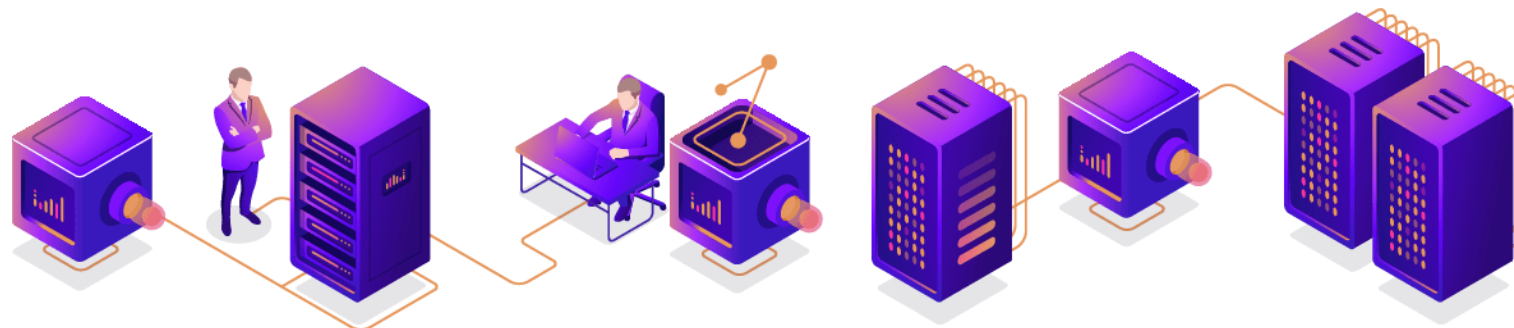
エッジコンピューティングがサポートする主なユースケース

- 1 オムニエクスペリエンスのためのリアルタイムの顧客分析
- 2 自動化された品質管理および修正
- 3 資産追跡、ジオフェンシング、管理



AI/MLを導入している主な業務プロセス

- 1 IT運用
- 2 セキュリティ
- 3 カスタマーサービスおよびサポート



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ **日本**
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



日本の概要 (1/2)

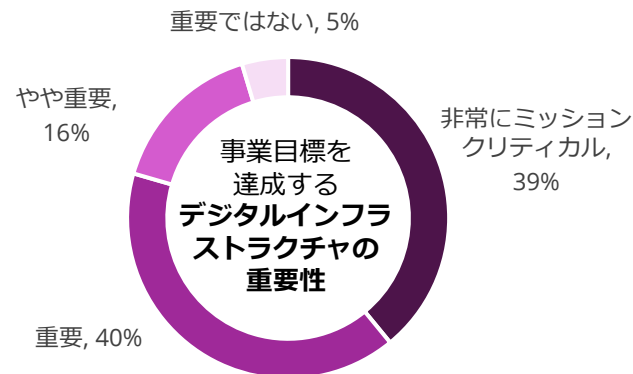
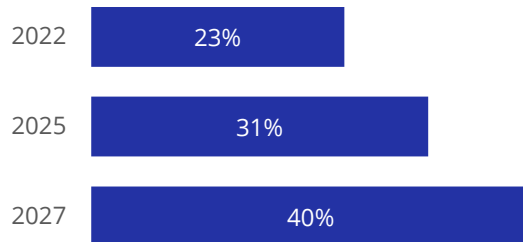
CIOの主な優先事項

- 1 収益および利益の成長の加速
- 2 コストの最適化と削減
- 3 従業員の生産性の向上

CIOの主な懸念

- 1 人的資本不足
- 2 原材料価格の高騰
- 3 エネルギー価格の上昇

デジタル製品／サービス から予測される収益への貢献



デジタルインフラストラクチャの 主な投資分野

- 1 デジタルインフラの管理とセキュリティの自動化
- 2 ランサムウェアやマルウェアの攻撃に対応するサイバーレジリエンシーの向上
- 3 共通データ管理プラットフォーム

進化するビジネスニーズに影響を与える分野

- 1 変化するビジネスニーズへの迅速な対応
- 2 IT運用の複雑性
- 3 インフラストラクチャのプロビジョニングと管理の標準化

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰したワークロード

40%

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰しなかったワークロード

48%

該当しない

12%



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ **日本**
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

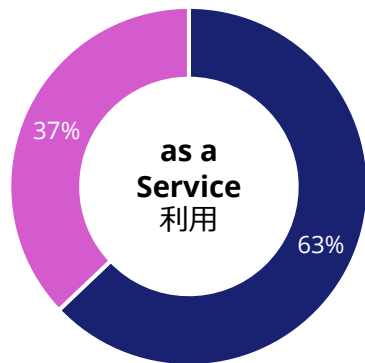
CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



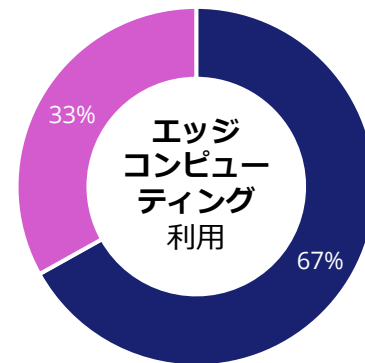
日本の概要 (2/2)

■ 利用している／次の12か月間で利用する予定である ■ 予定していない／知らない



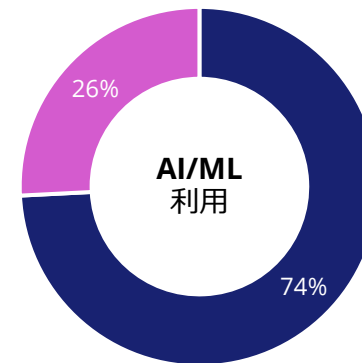
as a Serviceを利用する主な理由

- 1 IT運用コストの削減
- 2 インフラリソースの最適化と利用
- 3 ビジネス成果を上げるための技術的イノベーションの重視



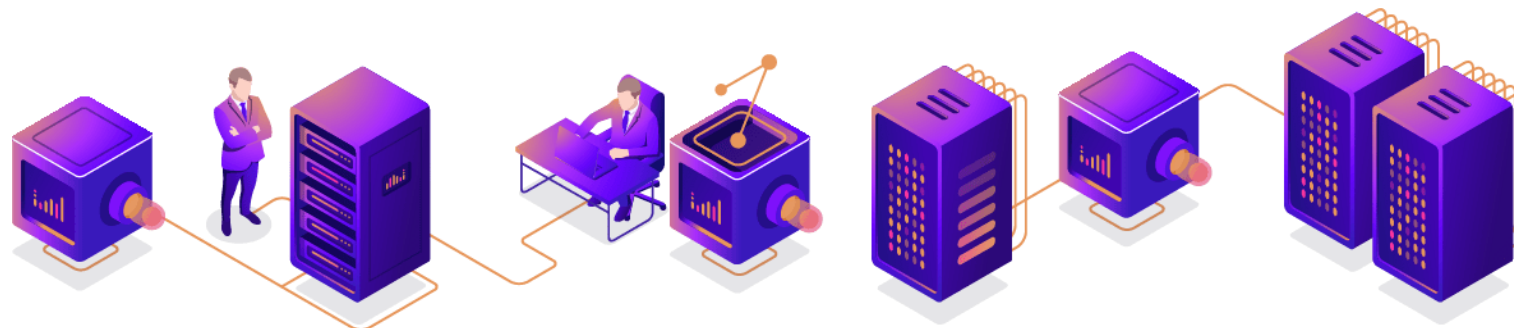
エッジコンピューティングがサポートする主なユースケース

- 1 自動化された品質管理および修正
- 2 セキュリティサービスのための画像および映像解析
- 3 資産追跡、ジオフェンシング、管理



AI/MLを導入している主な業務プロセス

- 1 セキュリティ
- 2 IT運用
- 3 不正／リスク管理



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

CIO Technology Playbook 2023の調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



韓国の概要 (1/2)

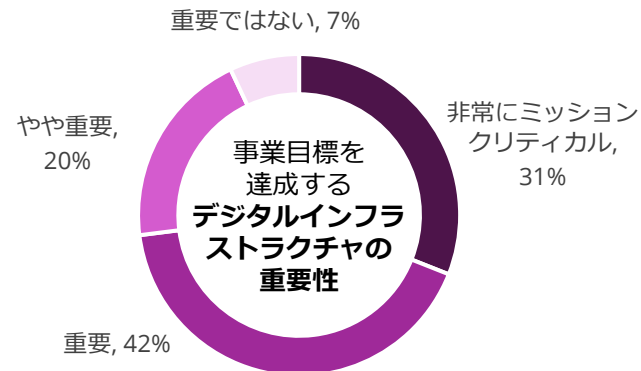
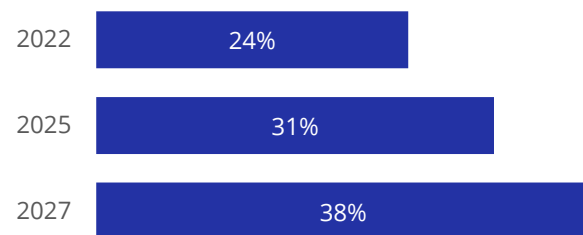
CIOの主な優先事項

- 1 収益および利益の成長の加速
- 2 顧客エクスペリエンスおよび満足度の向上
- 3 データに基づく意思決定の改善

CIOの主な懸念

- 1 原材料価格の高騰
- 2 高インフレ
- 3 エネルギー価格の上昇

デジタル製品／サービスから予測される収益への貢献



デジタルインフラストラクチャの主な投資分野

- 1 すべてのデジタルインフラリソースに対する統合管理コントロールプレーン
- 2 デジタルインフラの管理とセキュリティの自動化
- 3 アプリケーションを意識したネットワークの変革

進化するビジネスニーズに影響を与える分野

- 1 インフラストラクチャのプロビジョニングと管理の標準化
- 2 コンピューティング、ストレージ、ネットワークインフラストラクチャにおける人的資本のサイロ化
- 3 変化するビジネスニーズへの迅速な対応

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰したワークロード

58%

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰しなかったワークロード

38%

該当しない

4%



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ **韓国**
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

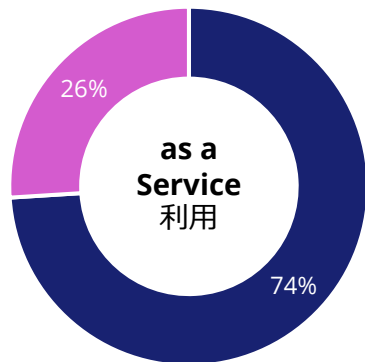
CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



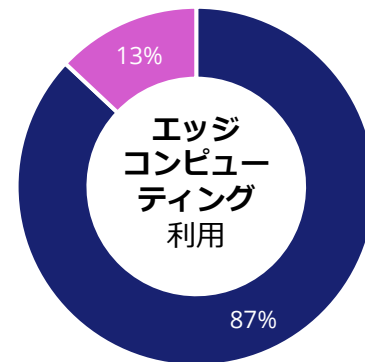
韓国の概要 (2/2)

■ 利用している／次の12か月間で利用する予定である ■ 予定していない／知らない



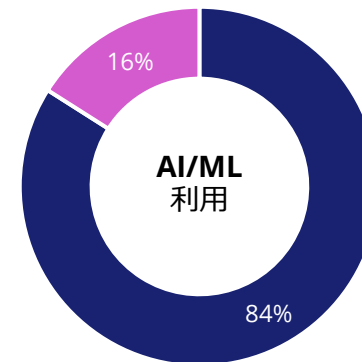
as a Serviceを利用する主な理由

- 1 ビジネス成果を上げるための技術的イノベーションの重視
- 2 IT運用コストの削減
- 3 IT人的資本のリソース不足の管理



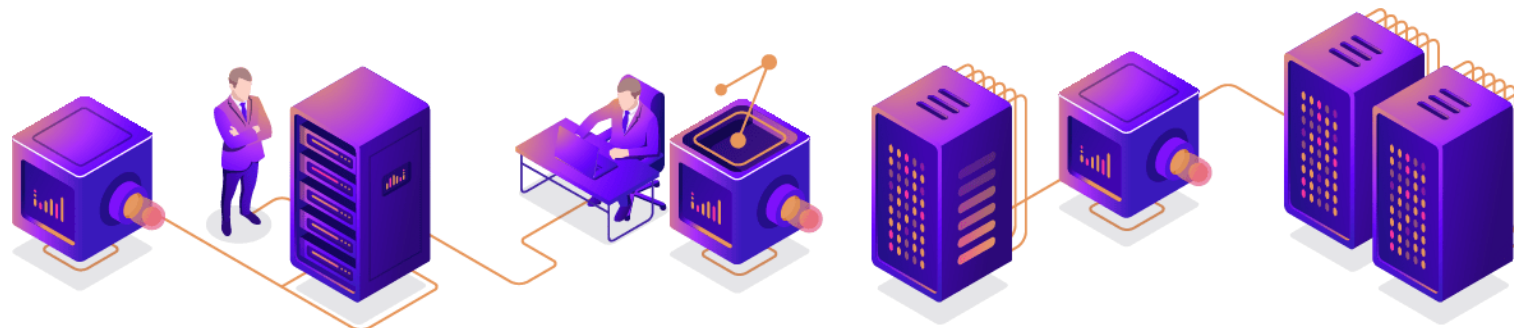
エッジコンピューティングがサポートする主なユースケース

- 1 セキュリティサービスのための画像および映像解析
- 2 自動化された品質管理および修正
- 3 エネルギー管理およびスマートグリッドの最適化



AI/MLを導入している主な業務プロセス

- 1 IT運用
- 2 サプライチェーン
- 3 研究開発／エンジニアリング



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ **インド**
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



インドの概要 (1/2)

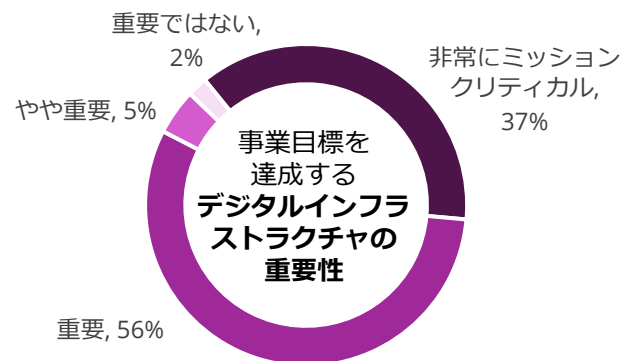
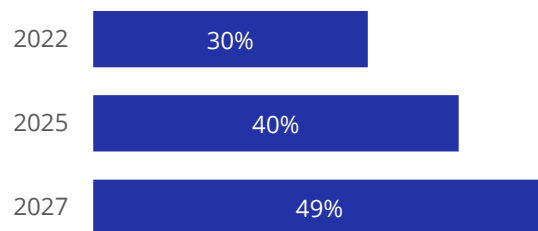
CIOの主な優先事項

- 1 顧客エクスペリエンスおよび満足度の向上
- 2 従業員の生産性の向上
- 3 ビジネスのアジリティと応答性の向上

CIOの主な懸念

- 1 エネルギー価格の上昇
- 2 高インフレ
- 3 成長する地政学的緊張

デジタル製品／サービスから予測される収益への貢献



デジタルインフラストラクチャの主な投資分野

- 1 AI/MLワークロードのためのハイパフォーマンスコンピューティングプラットフォーム
- 2 ランサムウェアやマルウェアの攻撃に対応するサイバーレジリエンスの向上
- 3 すべてのデジタルインフラリソースに対する統合管理コントロールプレーン

進化するビジネスニーズに影響を与える分野

- 1 IT運用の複雑性
- 2 事業部門とITチーム間のコラボレーションの促進
- 3 手作業によるIT運用プロセスの排除によるコストの最適化

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰したワークロード

78%

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰しなかったワークロード

21%

該当しない

1%



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ **インド**
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

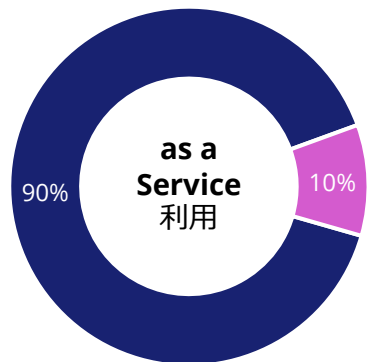
LenovoおよびAMDを活用する理由



インドの概要 (2/2)

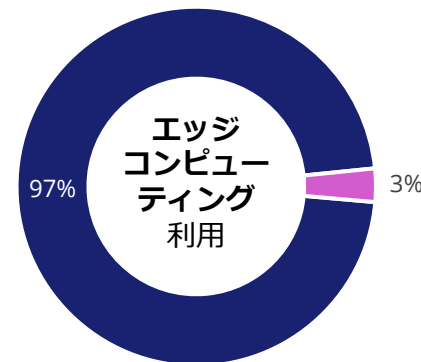
■ 利用している／次の12か月間で利用する予定である

■ 予定していない／知らない



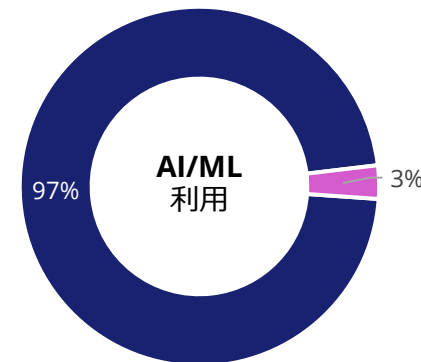
as a Serviceを利用する主な理由

- 1 IT運用コストの削減
- 2 インフラリソースの最適化と利用
- 3 ビジネスの要求に対応する柔軟性とアジリティの向上



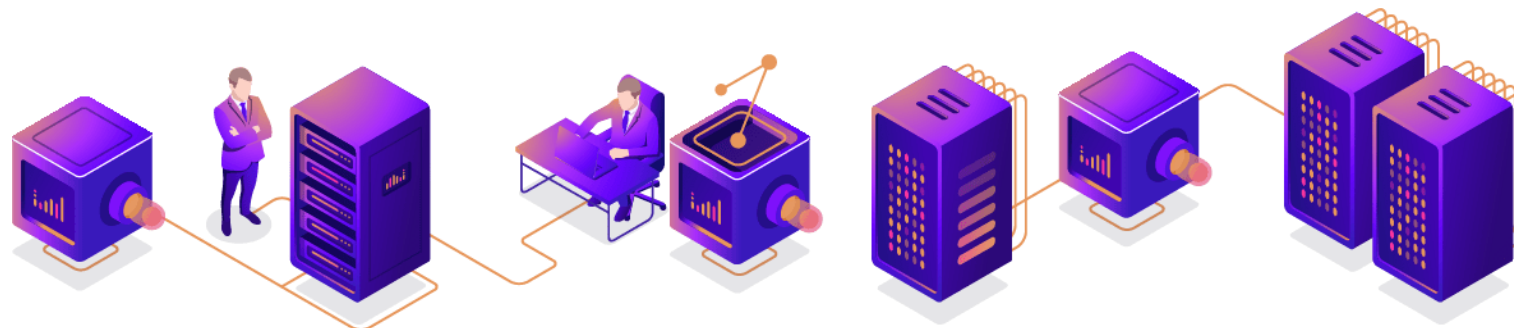
エッジコンピューティングがサポートする主なユースケース

- 1 オムニエクスペリエンスのためのリアルタイムの顧客分析
- 2 資産追跡、ジオフェンシング、管理
- 3 機器の遠隔診断と予測分析



AI/MLを導入している主な業務プロセス

- 1 IT運用
- 2 セキュリティ
- 3 研究開発／エンジニアリング



市場

- アジア太平洋地域（全体）
- 日本
- 韓国
- インド
- ASEAN+
- オーストラリア／ニュージーランド

CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



ASEAN+の概要 (1/2)

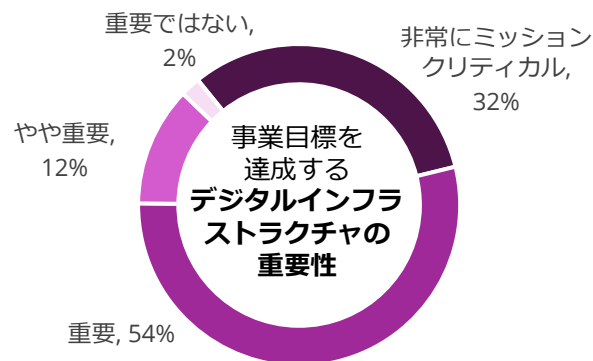
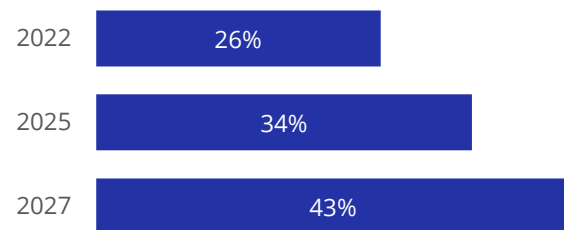
CIOの主な優先事項

- 1 コストの最適化と削減
- 2 顧客エクスペリエンスおよび満足度の向上
- 3 収益および利益の成長の加速

CIOの主な懸念

- 1 高インフレ
- 2 原材料価格の高騰
- 3 エネルギー価格の上昇

デジタル製品／サービス から予測される収益への貢献



デジタルインフラストラクチャの 主な投資分野

- 1 デジタルインフラの管理とセキュリティの自動化
- 2 ランサムウェアやマルウェアの攻撃に対応するサイバーレジリエンシーの向上
- 3 すべてのデジタルインフラリソースに対する統合管理コントロールプレーン

進化するビジネスニーズに影響を与える分野

- 1 変化するビジネスニーズへの迅速な対応
- 2 手作業によるIT運用プロセスの排除によるコストの最適化
- 3 最新のDevOpsをサポートするアジャイルなIT運用

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰したワークロード

68%

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰しなかったワークロード

28%

該当しない

4%



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ **ASEAN+**
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

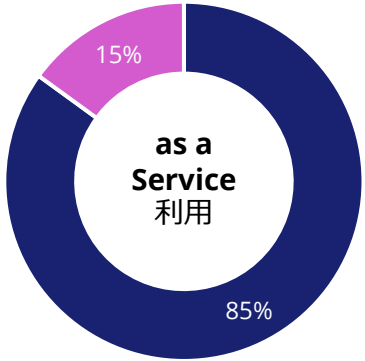
CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



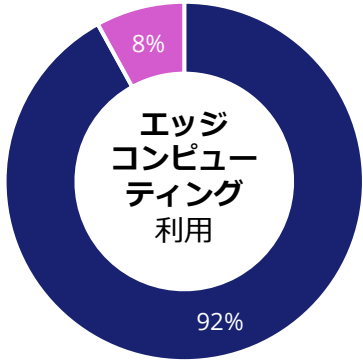
ASEAN+の概要 (2/2)

■ 利用している／次の12か月間で利用する予定である ■ 予定していない／知らない



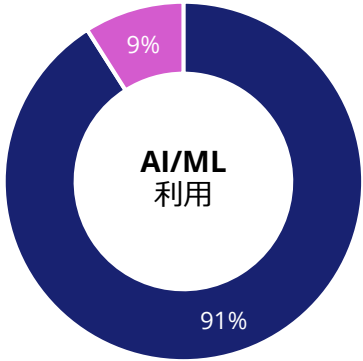
as a Serviceを利用する主な理由

- 1 IT運用コストの削減
- 2 ビジネスの要求に対応する柔軟性とアジリティの向上
- 3 ビジネス成果を上げるための技術的イノベーションの重視



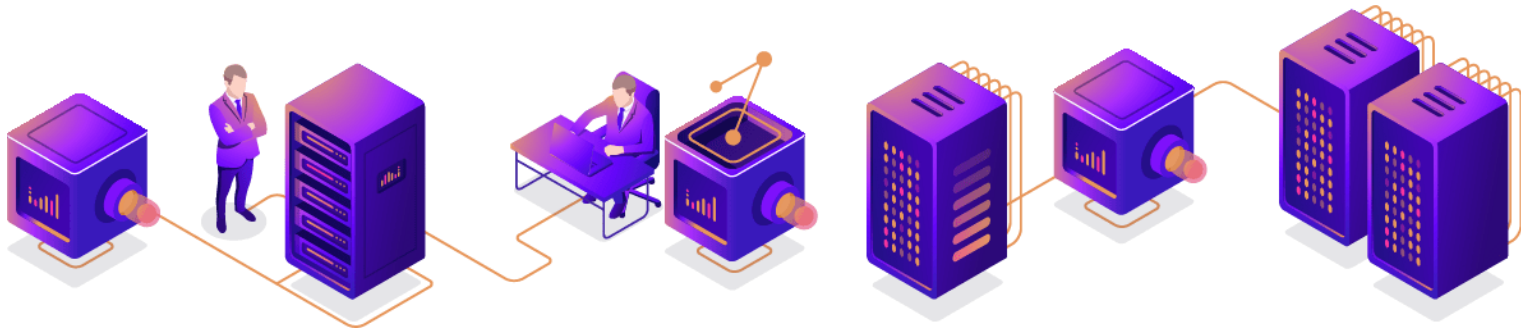
エッジコンピューティングがサポートする主なユースケース

- 1 オムニエクスペリエンスのためのリアルタイムの顧客分析
- 2 自動化された品質管理および修正
- 3 リアルタイムキャンペーンと設計のための顧客インサイト



AI/MLを導入している主な業務プロセス

- 1 IT運用
- 2 販売／物流
- 3 財務／会計



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ **オーストラリア／ニュージーランド**

CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

LenovoおよびAMDを活用する理由



オーストラリア／ニュージーランドの概要 (1/2)

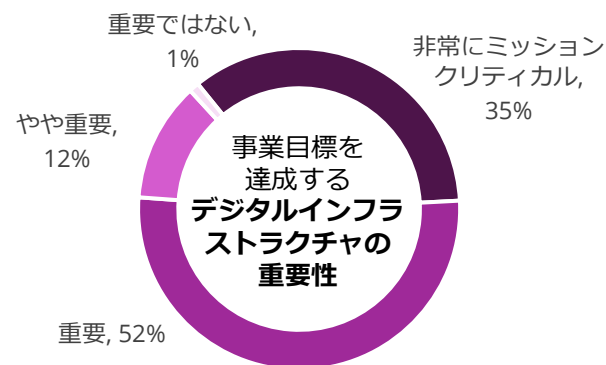
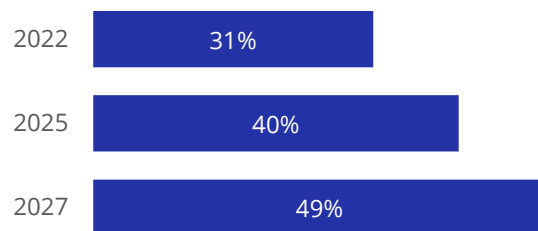
CIOの主な優先事項

- 1 データに基づく意思決定の改善
- 2 ビジネスリスクとサイバー脅威の低減
- 3 コストの最適化と削減

CIOの主な懸念

- 1 高インフレ
- 2 人的資本不足
- 3 エネルギー価格の上昇

デジタル製品／サービス から予測される収益への貢献



デジタルインフラストラクチャの主な投資分野

- 1 ランサムウェアやマルウェアの攻撃に対応するサイバーレジリエンシーの向上
- 2 マイクロサービス指向アーキテクチャのためのインフラストラクチャのモダナイズ
- 3 デジタルインフラの管理とセキュリティの自動化

進化するビジネスニーズに影響を与える分野

- 1 IT運用の複雑性
- 2 変化するビジネスニーズへの迅速な対応
- 3 事業部門とITチーム間のコラボレーションの促進

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰したワークロード

63%

パブリッククラウドからプライベートクラウド／DCに回帰しなかったワークロード

31%

該当しない

5%



市場

- ・ アジア太平洋地域（全体）
- ・ 日本
- ・ 韓国
- ・ インド
- ・ ASEAN+
- ・ オーストラリア／ニュージーランド

CIO Technology Playbook 2023の
調査概要

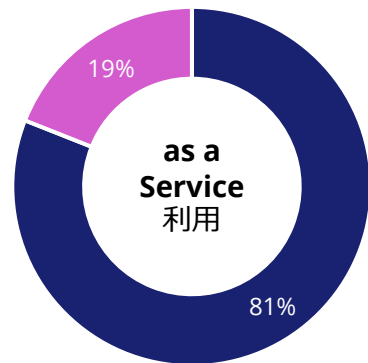
LenovoおよびAMDを活用する理由



オーストラリア／ニュージーランドの概要 (2/2)

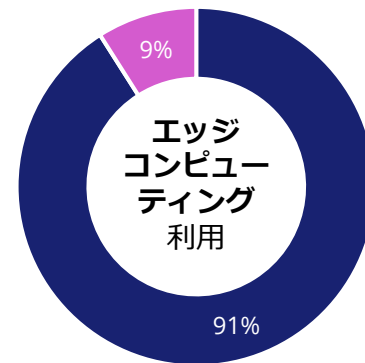
■ 利用している／次の12か月間で利用する予定である

■ 予定していない／知らない



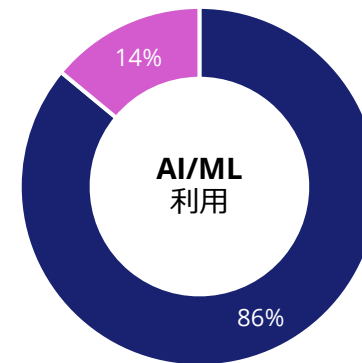
as a Serviceを利用する主な理由

- 1 IT運用コストの削減
- 2 ビジネスの要求に対応する柔軟性とアジリティの向上
- 3 IT人的資本のリソース不足の管理



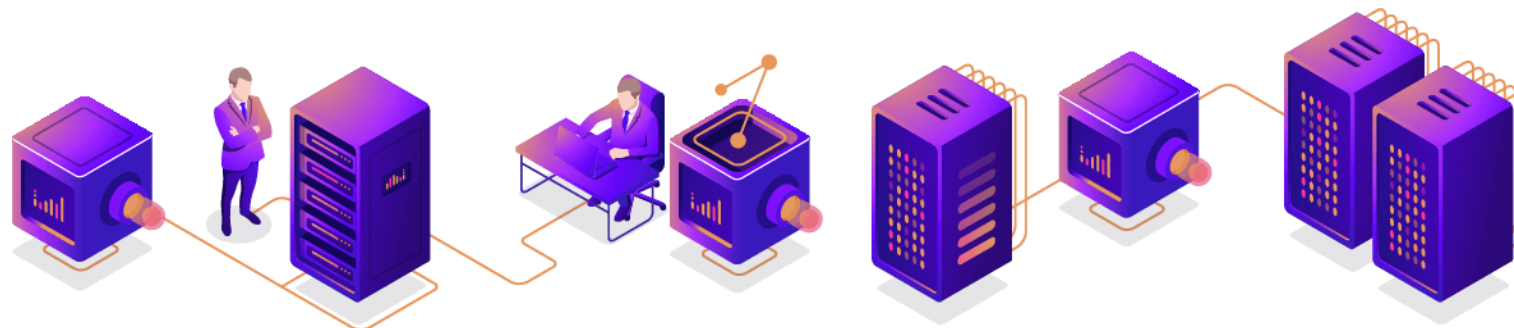
エッジコンピューティングがサポートする主なユースケース

- 1 オムニエクスペリエンスのためのリアルタイムの顧客分析
- 2 不正の検知およびリスク管理
- 3 エネルギー管理およびスマートグリッドの最適化



AI/MLを導入している主な業務プロセス

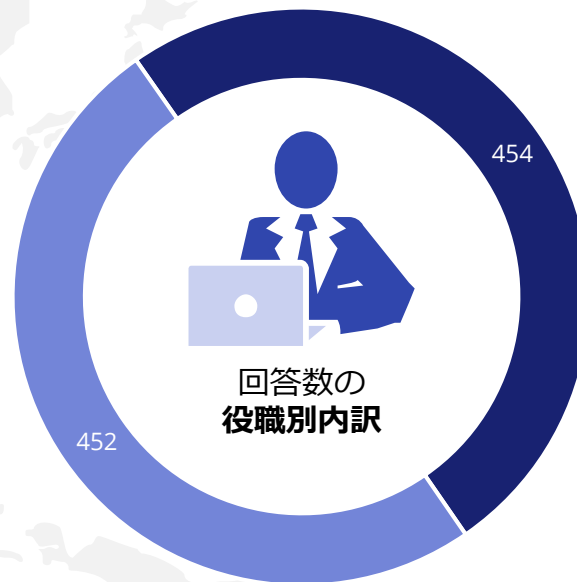
- 1 セキュリティ
- 2 不正／リスク管理
- 3 IT運用



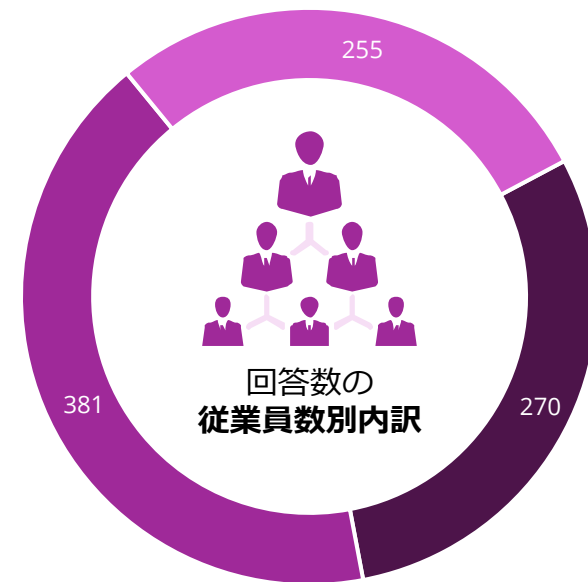
CIO Technology Playbook 2023の調査概要

本プレイブックは、回答者906人への調査に基づいて作成。サンプルサイズ（回答数）の内訳は以下の通り

市場	調査サンプルサイズ
オーストラリア	81
香港	50
インド	153
インドネシア	60
日本	151
マレーシア	51
ニュージーランド	50
フィリピン	50
シンガポール	60
韓国	100
台湾	50
タイ	50



■ 経営陣
■ C-1



■ 500~999人
■ 1,000~4,999人
■ 5,000人以上

私たちのパートナーシップ



世界がデジタルトランスフォーメーションに向けて移行する中で、LenovoとAMDは、新しいイノベーションを創造するために提携し、顧客の問題を解決し、新しい機会を生み出しています。これは、私たち全員が暮らし、学び、働く方法を加速し、変革することを支援できます。

LenovoとAMDは、あらゆる人にスマートなテクノロジーを提供するという力強いビジョンを掲げ、よりインクルーシブで、信頼でき、持続可能なデジタル社会を創造する、世界を変えるような技術を開発しています。このパートナーシップは、オープンで信頼でき、安全なインフラソリューションの実現に特化しています。ハイブリッドクラウド、HPC & AI、データ管理、as a Serviceなどの業界をリードするソリューションで構成されています。

この信頼されるパートナーシップが提供すること

- あらゆる規模のエンドツーエンドのソリューションとサービス
- 実用的なインサイトを提供できる信頼できるテクノロジー
- あらゆる時に信頼されるパートナー



弊社のポートフォリオ

ビジネスがDXに向けて加速している中で、データの生成量は2025年までに倍増すると予測されています。このITの新しい時代は、場所を問わないコンピューティングに対する需要を反映しています。顧客は、データを統制し、ビジネスを変革するインサイトを創造できるようにするため、クライアント-エッジ-ネットワーク-クラウドのインテリジェンスに広がる新しいITアーキテクチャを必要とするようになります。この需要に応えるため、Lenovo Infrastructure Solutionsは最近、V3ポートフォリオを開始しました。これは次世代のThinkSystem、ThinkAgile、ThinkEdgeサーバーとストレージシステムに渡るもので、次世代のAMD EPYC™プロセッサがサポートする、業界で最も信頼されるセキュアなシステムであると考えられています。当社の顧客は高パフォーマンスのコンピューティング、AI、ミッションクリティカルなビジネスワークロードをハイブリッドのマルチクラウドコンピューティング環境で実行できます。

Lenovoの次世代ThinkAgile V3ハイパーコンバージドインフラストラクチャソリューションは、最新の第4代AMD EPYC™プロセッサを搭載し、Microsoft、Nutanix、VMwareのソフトウェア機能など、パートナー企業のオープンエコシステムと事前に統合され、TruScaleインフラストラクチャas a Serviceを通じて利用すると最大限の柔軟性を発揮します。クラウドのような体験の利便性と、従来型のオンプレミスソリューションのセキュリティと統制が同時に実現できます。

[詳細](#)

持続可能性の目標



Lenovoは、世界のテクノロジーリーダーとして、持続可能でインクルーシブな将来を見据えて業務を遂行することによって、弊社が環境に与える影響を軽減し、カーボンフットプリントを削減することを目指しています。パッケージ、製造、機器買取サービス、水冷テクノロジーにおける進展は、Lenovoが2050年までに二酸化炭素排出量のネットゼロを目指すという目標達成に貢献しています。

進展の例

- サーバーの梱包材の30%にオーシャンバウンドプラスチック由来の再生材を使用。
- ほぼ40万台のサーバーをラックで輸送することで、過去2年間に段ボール使用量を1,750トン削減（2万4,000本分の木に相当）。
- Neptune™液体冷却によって、お客様の消費電力を最大40%節減すると共に、データセンターの水使用問題を解決可能。炭素効率の高いサーバーとストレージの利用が可能に。

詳細については、
こちらをクリックしてください

顧客のケーススタディ



一流大学であるインド工科大学ジョードプル校は、変革して将来に備えるため、プロセッサ「AMD EPYC™」を搭載したLenovo ThinkSystemサーバーに移行しました。

ケーススタディを読む